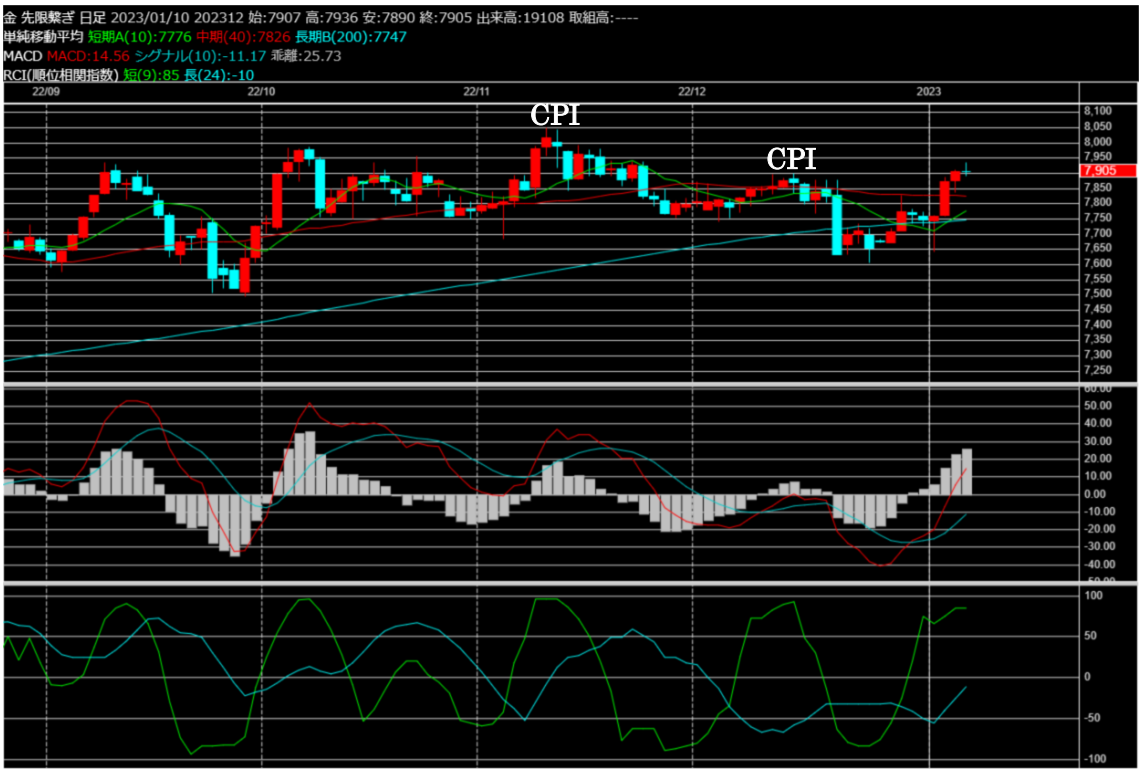
2023/1/10

＜金標準先物、11 月、12 月の CPI 以降は下落・・＞



（出所：オアシス）

雇用統計で非農業部門就業者数が事前予想を上回る 22.3 万人増、失業率も 50 年ぶりの低水準である 3.5%となるなど、雇用情勢は依然とひっ迫感を示しているが、平均時給が前年同月比で前月の 4.8%が 5.1%へ上方修正され、12 月は 4.6%に低下している。また FRB が示すインフレ懸念で注意するサービス部門である ISM 非製造業景気指数が好不景気の分岐点である 50 を下回る 49.6 となるなど、インフレ抑制の動きが示されている。

そのためクック FRB 理事は、雇用統計を受けて「労働報酬の伸びが過去 1 年間に幾分か実際に減速し始めたことを最近のデータは示唆している」と述べ、またボスティック・アトランタ連銀総裁は「現時点では、0.5%でも 0.25%でも違和感はない」と発言するなど、次回の FOMC における利上げ幅の縮小が強まりを見せている。

特に今週は 12 日に消費者物価指数（CPI）の発表を控え、昨年 11 月はコア CPI の前年比で 6.6%から 6.3%へ低下、12 月も 6.3%が 6.0%へ低下を示すと金標準先物は、11 月、12 月も CPI の発表を機にピークアウトから下落へ転換しており、今週の 12 日以降の値動きには注意が必要と思われる。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇し、シグナルも上昇している。RCI は短期が+90%で維持しながら、長期は上昇しており、オシレーターは強気のままで推移している。ただ日足と 10 日移動平均線に乖離が拡大するなど、目先買われ過ぎた域を示すなど利益確定を進めるのが妥当と思える。

2023/1/10

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円（2023 年 1 月 10 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円（2023 年 1 月 10 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-3249-8827 （受付時間：平日 8:30～17:30）
証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター https://www.nisshokyo.or.jp